

絆きずな 25号

平成29年3月2日発行

発行責任者：吉竹一泰

文責：野下佐知子

毎週木曜日は「人権学習の日」です。自分の言動を振り返ったり、さまざまな人権問題について考えたりすることで、自分を磨いていく日にしましょう。

【ゆずりは】

河井醉茗『紫羅欄花』

こどもたちよ、

これは ゆずりはの木 です。

この ゆずりはは 新しい葉ができると入れ代って古い葉が落ちてしまうのです。

こんなに厚い葉 こんなに大きい葉でも

新しい葉ができると無造作に落ちる、新しい葉にいのちを譲^{ゆず}って一。

こどもたちよ、

おまえたちは何をほしがらないでも すべてのものがおまえたちに譲^{ゆず}られるのです。

太陽のめぐるかぎり 譲^{ゆず}られるものは絶えません。

輝ける大都会も そっくりおまえたちが譲^{ゆず}り受けるものです、読みきれないほどの書物も。

みんなおまえたちの手に受け取るのです、

幸福^{しあわせ}なるこどもたちよ、おまえたちの手はまだ小さいけれど一。

世のおとうさん、おかあさんたちは 何一つ持っていない。

みんなおまえたちに譲^{ゆず}っていくために、

いのちあるもの、よいもの、美しいものを一生懸命に造っています。

今、おまえたちは気がつかないけれど ひとりでに いのちは 伸びる。

鳥のように歌い、花のように笑っている間に 気がついてきます。

そしたらこどもたちよ、

もう一度ゆずりはの木の元に立って ゆずりはを見る時がくるでしょう。



【感想より】

1年生

- ・僕は最初、このゆずりはの木が何を表しているのか想像もつきませんでした。文章を読んで、この木の葉の入れ代わりが、自分たちが成長し、社会に出ていくことを表しているのだと思いました。この文章を読んで、また改めて将来の自分たちのことを考えられたような気がしました。
- ・命は受け継がれていて、僕たちが欲しがらないものでも全てのものが僕たちにゆずられてくるということを読んで、改めて命の大切さを知ることができました。僕たちは新しい葉で、古い葉から命をゆずってもらっている。しかし、いつか僕たちも古い葉になって新しい葉に命をけずっていくのだと思いました。命は永遠に受け継がれていて、一生とぎれないもののだと思いました。古い葉からもらった新しい命、いずれ古い葉になり新しい葉にゆずる命を大切にしていきたいです。
- ・古い葉が落ちると、また新しい葉ができる。その葉が古くなって落ちると、その次にまた新しい葉ができる。その葉が・・・は、人間と同じなのかなあと思いました。自分たちよりも後の子どもたちのために、良いものを造っていくところがいいなあと思いました。私も「ゆずる」気持ちを忘れずにいきたいです。
- ・今は自覚がないけれど、自分たちが大人になって一つ上の世代の人々が段々いなくなったら、今ある社会は、僕たちが動かしていかなければならないということを知りました。義務教育最後の中学校と言う場で、これから社会に出た時に、先人の人々が築いてきたものを守り、次につなげる力をしっかり学び身に付けたいです。
- ・私たちはよく物をほしがれるけれど、気づかないうちにたくさん大切な物をもらっているんだなあと思いました。そして、お父さんやお母さんたちからもらった大切な物を私も次の世代の人たちに残していけたらいいなあと思いました。
- ・「ゆずりは」という植物を初めて聞いて何だろうと思ったけど、考えてみると「ゆずりは」→「譲る葉」ということが

